

生活科学科 産業教育展 「ずんどら」調理体験ブース

実施期日 平成 27 年 10 月 24・25 日

平成 27 年 10 月 25 日付 北鹿新聞掲載



産業教育展

高校生がエダマメ新商品

ネーミングも
アイデア光る
「縁むすび」に「ずんどら」

24日に大館樹海ドームで始まった大館圏域産業祭の産業教育展で、地元高校生がエダマメの新商品を開発して販売し、販路拡大を目指す地域の取り組みを後押ししている。「ずんどら」「ずんだんぼ」など味やネーミングにも生徒のアイデアが光り、来場者の注目を集めている。地元の小中高、短大、企業など17団体が出展し、日ごろの学びの成果を披露している。

大館圏域産業祭

大館国際情報学院高校の2年生24人は、授業で商開発に取り組み、「大館と学校をPRしよう」と、エダマメレシピ3品を考案。製造は地元の製菓店や直売所に依頼した。

きりたんぼのようにおはぎを串にさした「おはぎ風ずんだんぼ」や「えだまめこむーす」、地元産のエダマメに加え、野菜やキノコの炊き込みご飯は「縁むすび」として販売した。中嶋歩香さんは「全部」と話した。「ずんどら」作ってみませんか。大館高校生活科学科調理コースの2、3年生はずんだのあんをはさんだずんどら焼きの調理体験ブースを設けた。あんには小さな白玉を加え、「食感が楽しめる。甘さ控えめで、ずんだそのものの味を味わってほしい」と小笠原愛さん（3年。来年度の統合に向け、大館工業高校も協力し、校名「大館桂桜」の焼き印を製作。「ずんどら」に焼き印を押し、統合校の紹介にも一役買った。

而校は25日も限定で販売や調理体験を行う。最終日は中学校ロボット大会（午前10時30分）、高校生ファッションショー（午前11時）、ものづくり体験などが行われる。

ての世代が好きなおむすびにこだわった。学校と生産者、来場者の縁を結ぶ商品になれ

開発したエダマメ商品を販売する国際情報高の生徒（大館樹海ドーム）